

建築物名称	三協大淵工場
受付日	令和1年6月25日
建物所在地	静岡県富士市大淵字横沢2362-1他4筆
構造規模等	鉄骨造／地上4階／延床面積4953.84平方メートル／新築
建物用途区分	工場
建築主	株式会社三協 代表取締役社長 石川 俊光
設計者	株式会社設計工房K一級建築士事務所 近藤 清
工事完了予定日	令和元年11月30日

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三協大洲工場	階数	地上4F
建設地	静岡県富士市大洲字横沢2362-1他	構造	S造
用途地域	工業地域 22条区域	平均居住人員	52 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日	2019年6月18日
敷地面積	2,617 m <sup>2</sup>	作成者	近藤清
建築面積	1,570 m <sup>2</sup>	確認日	2019年6月18日
延床面積	4,954 m <sup>2</sup>	確認者	近藤清



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超 ☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 2.5**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.4

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.4

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 2.4**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.4

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.5

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.5

3 設計上の配慮事項		
総合	総合的目標 断熱性能を高め、空調設備による温度管理に優れた工場とする HACCPに対応する高度な衛生管理を可能とした計画とする	その他 該当無し
Q1 室内環境	空調による温度管理を徹底した計画とする HACCPに対応する高度な衛生管理を可能とした計画とする 高断熱性能仕様の外壁材の採用・開口部を極力少なくする	Q3 室外環境(敷地内) 外装材の彩色は中間色とし景観と調和させる 看板は必要最低限とし過度な配色をしない
LR1 エネルギー	LED照明を採用する	LR3 敷地外環境 騒音、振動、悪臭の発生する作業は無い
Q2 サービス性能	HACCPに対応する高度な衛生管理を可能とした計画とする 衛生管理に適応した内装材の採用 リフレッシュスペースとして食堂を設置・高い天井高を採	
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含む材料、資源を利用しない	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	三協大洲工場	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	1.8	/5		がんばんろう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.4	/5		がんばんろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	1.8	/5		がんばんろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	1.2	/5		がんばんろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばんろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		1.8		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①ダブルスキンの採用による開口部の温熱環境の向上。 ②ライトシェルフの採用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦ダブルスキンによる高断熱化。 ⑧自然通風、ライトシェルフによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。 ⑫地下躯体部分における高炉セメントの採用。 ⑬不活性ガス(CO2)消火設備の導入。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭省エネルギー対策と、高炉セメントの採用。 ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑩ 生物環境の保全と創出 ⑪ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑬ 自然エネルギー利用 ⑭ 設備システムの高効率化 ⑮ モニタリング ⑯ 運用管理体制 ⑰ 節水 ⑱ 雨水利用システム導入の有無 ⑲ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑳ 材料使用量の削減 ㉑ 既存建築躯体等の継続使用 ㉒ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉓ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉖ 有害物質を含まない材料の使用 ㉗ 消火剤 ㉘ 断熱材 ㉙ 冷媒 ㉚ 地球温暖化への配慮 ㉛ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		2.4	
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯制振装置の採用。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑲ 電気設備 ⑲ 機械・配管支持方法 ⑲ 通信・情報設備	
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		1.8
	<p>■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり)</p> <p>⑯バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>⑲街並みに配慮し、木材等自然素材を活用した外装とした。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯⑰ 3 3.1 3.1.1 ⑱ 3.1.2 ⑱ Q-3 3 3.1 ⑲	⑯⑰ ユニバーサルデザイン計画 ⑱ 階高のゆとり ⑱ 空間の形状・自由さ ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		1.2		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑵まちなみ・景観への配慮/⑶敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑵敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑶緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑵温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑵外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	Q-3 1 ⑵ 2 ⑵ 3 3.2 ⑶ LR-3 2 2.2 ⑵	⑵ 生物環境の保全と創出 ⑵ まちなみ景観への配慮 ⑶ 敷地内温熱環境の向上 ⑵ 温熱環境悪化の改善		